



ディウフFAO事務局長 ©FAO/Giulio Napolitano

ディウフFAO事務局長、 新しい世界の農業秩序を訴える

ローマで開かれたFAO総会において、ディウフFAO事務局長は、世界中全ての農民に最低限の生活を保障するため自由で公正な貿易体制を作ること、また世界の食料安全保障のために年間300億ドルを農業へ資金投入することを検討するため、2009年前半にも食料サミットが開催されるべきだと訴えました。300億ドルという数字は、現在の金融危機に対する資金投入、あるいは2007年のOECD諸国農業補助金(3,650億ドル)や世界の軍事支出額(1兆3,400億ドル)をみれば、無理のない数字であると、事務局長は強調しました。また、2050年には90億に達するとされる世界の人口への食料供給のために食料

生産の倍増が求められているなか、現状を把握し将来を予測して必要な取り組みを呼びかける仕組みとして、現存する世界食料安全保障委員会を活用することを提案しました。(11/19、ローマ)

総会では、FAOの「成長に向けた改革」のため、今後3年間の行動計画と4,260万ドルの予算が承認されました。(11/22、ローマ)

関連ウェブサイト

The Director-General's home page : www.fao.org/about/director-gen
FAO Chief appeals to Obama to help end hunger : www.fao.org/news/story/en/item/8330
FAO日本事務所：プレスリリース「ディウフFAO事務局長が新しい世界の農業秩序を訴える」：www.fao.or.jp/media/press_081125doc.pdf

Contents

Top -----

ディウフFAO事務局長、
新しい世界の農業秩序を訴える

Articles -----

穀物生産、史上最高の見通し
——しかし問題は前途に待ち受ける

ディウフ事務局長、
オバマ次期米大統領に
食料サミット開催を呼びかける

殺虫剤トリブチルスズ、
貿易「監視リスト」追加へ

中央アジアの
内水面漁業の危機

アフリカで温室効果ガス
削減の可能性

Perspectives ---

今月の視点
停滞する開発途上国の穀物生産

Activities -----

テレフードイベント

講演会

関連イベント

Info -----

1月の主な活動予定

テレフード基金にご協力を
メールニュース配信のお知らせ
本紙の配布について

FAO
Newsletter

Jan.2009
vol.34



金融危機は世界の農業経済に不確実性をもたらした
©FAO/R. Messori

穀物生産、史上最高の見通し ——しかし問題は前途に待ち受ける

FAOの「Food Outlook (食料需給見通し)」によると、世界の穀物生産は高値により作付面積が大幅に広がり、またおおむね気候条件が良好だったこともあり、今年新たに記録更新が予想されています。世界の穀物生産予測は、短期的な消費を満たすことができるとともに、大幅に枯渇している世界の在庫をある程度補充できるとされています。

しかし同時にFAOは、穀物生産の回復の大部分は農民が価格高騰への対応に有利な立場にあった先進国で起こったことを強調しています。開発途上国では逆に農業部門の供給側の制約で価格高騰に対応する能力に大きな制限がありました。2007/08年の急激な食料価格上昇は、世界の栄養不足人口を推定9億2,300万人に増加させました。国際農産物価格の下落は、ほとんどの低所得国ではまだ国内食料価格の下落という形で反映されていません。その結果、食料摂取量の減少や飢餓人口の更なる増加も懸念されています。(11/6、ローマ)

関連ウェブサイト

Food Outlook November 2008 : www.fao.org/docrep/011/ai474e/ai474e00.htm

World Food Situation : www.fao.org/worldfoodsituation/wfs-home
FAO日本事務所：プレスリリース「史上最高の収穫、しかし問題は前途に待ち受ける」：www.fao.or.jp/media/press_081106doc.pdf

ディウフ事務局長、 オバマ次期米国大統領に 食料サミット開催を呼びかけ

ディウフ事務局長は、次期米国大統領に選出されたオバマ氏へ祝福のあいさつを送るとともに、米国が2009年前半に食料サミットを主催するよう要請しました。最近の食料および金融危機によって9億2,300万人が飢餓に苦しんでいることへの対策を行うだけでなく、2050年には90億人に達するとみられる全世界の人口に適切な食料を供給するためにも、年間300億ドルの農業投資が必要であることを示し、米国が積極的な姿勢を示すことが重要と訴えました。(11/6、ローマ)

関連ウェブサイト

FAO日本事務所：プレスリリース「FAO事務局長が米国の次期大統領に世界の飢餓撲滅への支援を要請」：www.fao.or.jp/media/press_081106dg_obama.pdf

殺虫剤トリブチルスズ、 貿易「監視リスト」追加へ

特定有害化学物質および殺虫剤の輸出入の事前同意手続きに関するロッテルダム条約の締結国は、ローマで開催された会議において、船体の防汚塗料として使われ魚や軟体動物などに有毒なトリブチルスズ殺虫剤を、世界貿易「監視リスト(PICリスト)」に追加することで一致しました。一方で、同じく環境や人体に有害なクリソタイル(アスベスト)とエンドスルファン(殺虫剤)については合意に至らず、会議では多くの政府が懸念を示しました。

PICリストには、現在、前述以外全てのアスベストを含む39の有害物質が載っており、その輸出は輸入国による事前同意を必要とします。この仕組みは特に途上国に、有害性の恐れがある化学物質の入手および排除を決定する力を与えます。今日では7万種類の化学物質が市場で取り引きされ、およそ1,500種が毎年新たに導入されており、途上国では、先進国で使用が禁止もしくは厳しく制限されている殺虫剤の多くが、現在も取り引きされ使用が続いています。(11/3、ローマ)

関連ウェブサイト

Rotterdam Convention : www.pic.int

120カ国以上から500を超える代表者らが参加
©FAO/Giulio Napolitano





エレバンの魚市場。アルメニアの漁獲量は1989年に比べ81%減少している
©FAO/Johan Spanner

中央アジアの 内水面漁業の危機

中央アジアおよびコーカサス諸国では、漁業資源管理の不備や漁業設備更新の遅れ、漁業投資の急減少、密漁などにより、漁獲量が1980年代に比べ60-98%も落ち込んでいることが、デュシャンベ（タジキスタン）で開かれた会議で明らかにされました。タジキスタン政府が呼びかけたこの会議には、アルメニア、アゼルバイジャン、中国、グルジア、カザフスタン、キルギスタン、ロシア、トルコが参加し、FAOは会議を共催するとともに必要な情報や技術を提供しました。会議では、一国単位では対応できない事態であることを踏まえ、アジア太平洋養殖センターネットワーク（NACA）、地中海漁業一般委員会（GFCM）といった他地域の例に学んで、漁業の持続的な振興に地域として取り組んでいくことが呼びかけられました。（11/10、デュシャンベ、ローマ）

関連ウェブサイト

All documents and reports from the meeting in Tajikistan : <ftp.fao.org/FI/DOCUMENT/sec/default.htm>
Information from FAO on regional fisheries bodies : www.fao.org/fishery/rfb

アフリカで温室効果ガス削減の可能性

FAOを含む15機関による国際共同研究プロジェクトCarboAfricaは、アフリカでは化石燃料による温室効果ガス（GHG）の排出は一部であり、森林伐採、森林火災などによる排出が大きいことを明らかにしました。一方で、GHGを吸収する力の大きい環境保全型農業の拡大などにより、排出量を上回る吸収が期待されます。CarboAfricaは2010年の最終報告書に向け、去る11月25-27日にガーナにおいて各国政府、国際機関、コミュニティ代表など100名以上が参加して開かれた会議で中間報告を行ないました。（11/25、ローマ）

関連ウェブサイト

CarboAfrica's website : www.carboafrika.net/index_en.asp
Climate change information from FAO : www.fao.org/climatechange/home
European Commission Research : ec.europa.eu/research/index.cfm?lg=en
University of Tuscia : www.unitus.it

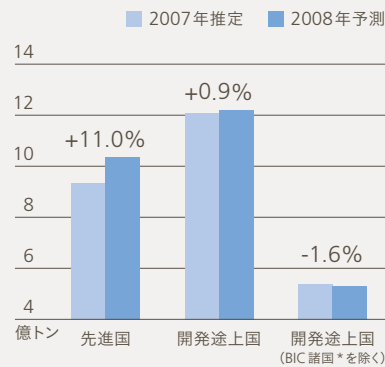


アフリカにおける炭素循環を観察する
Photo courtesy of www.carboafrika.net

今月の視点

停滞する開発途上国の穀物生産

2007年と2008年の穀物生産



*BIC諸国：ブラジル、インド、中国（本土）

2008年の世界の穀物生産は、高価格に刺激された作付面積の拡大と良好な天候により、対前年比5.3%増の22億4,150万トンと見通されています。価格も、2008年前半に記録したピークと比較すると、かなり落ち着いてきました。

しかし、このような穀物生産の動向を先進国と開発途上国に分けてみると、先進国の穀物生産が11%の伸びを示したのに対し、飢餓問題に苦しむ開発途上国の伸びは0.9%にとどまっています。さらに、経済成長の著しい中国、インド、ブラジルを除いた開発途上国でみれば、むしろ、1.6%のマイナスです。

貧困国の農業生産者は、インフラ、農業技術等の面で劣っていることに加えて、肥料、種子、エネルギー等生産資材価格の上昇に直面し、生産拡大が困難であったことがうかがえます。

（FAO日本事務所長 横山光弘）

出典：“Food Outlook, November 2008” FAO, 2008

Activities

を取り巻く新たな動きとして、「科学技術外交」という政策概念や、国際農業研究協議グループ (CGAIR) の活動、多額の資金によるゲイツ財団の農業研究への投資活動などについての紹介がなされました。

関連ウェブサイト

JAICAF: ニュース: 「2008年度食料・農業協力講演会」:
www.jaicaf.or.jp/news/index.htm



講師の小山氏 ©JAICAF

テレフードイベント

2008年11月15-16日、4,000名を超える参加を得て「アジアリーグアイスホッケー2008-2009 テレフードチャリティーゲームズ」が新横浜スケートセンターで開催されました。選手のサイン入りスティック、ジャージ、ヘルメットなどのグッズのチャリティー販売もあり、募金は重野アジアリーグ事務局長からFAO日本事務所へ手渡されました。また同25日には横浜みなとみらいホールにて「テレフードチャリティーコンサート2008『大地の詩』—アフリカに光と風を—」が開催されました。今年はアフリカをテーマとし、歌・ピアノ・打楽器の演奏の後、俳優の五大路子さんがピアノ伴奏に載せてエチオピアでの食料配給ボランティア体験の絵本を朗読しました。イベントでの募金はアフリカなど食料不足に苦しむ国のテレフード・プロジェクトに使用されます。

関連ウェブサイト

TeleFood: www.fao.org/getinvolved/telefood
FAO日本事務所: 「アジアリーグアイスホッケー2008-2009 テレフードチャリティーゲームズ概要」: www.fao.or.jp/medianews_081125.pdf



アイスホッケーチャリティー試合で挨拶する横山FAO日本事務所長 ©Seinosuke Uchigasaki

講演会

11月21日、JAICAFと農林水産政策研究所との共催により、第5回食料・農業協力講演会が行われ、国際農林水産業研究センター (JIRCAS) の小山修研究戦略調査室長より「食料安全保障/持続的農業開発と国際農林水産研究の役割」と題してお話をいただきました。栄養不足人口の増加やバイオ燃料への需要増加に応えるために、生産技術開発にますます期待がかかっている現状のほか、国際農林水産研究

関連イベント

FAO日本事務所は、11月14-15日に東京ビッグサイトで開催された農林水産祭「実りのフェスティバル」にブース出展し、来場者に、世界的な食料価格高騰下での食料問題の重要性を訴えました。川崎市平和館企画展「どう考えますか?! 『食料問題』」(11月22-30日開催) においてはパネル・資料展示を行い、期間中に行われた国安FAO日本事務所副代表による講演会「世界の飢餓と食料問題—価格高騰への対応—」では、平和館を訪れた川崎市市民や学生などに、食料問題解決への一人一人の参加をお願いしました。また、30日には「第2回西区ハマのウォーキングフェスティバル」が開催され、西区にある国際機関の紹介としてFAO日本事務所がブース出展しました。1,500名を超える参加者は、西区の名所を散策した後、続々とゴールし、FAOの資料を見たり募金に協力してくださいました。

関連ウェブサイト

日本農林漁業振興会: 「実りのフェスティバル」: www.affskk.jp/sub3.htm
川崎市平和館: www.city.kawasaki.jp/25/25heiwa/home/heiwa.htm
記者発表資料 (西区): 1,600人が歩いて、ヨコハマ・西区の魅力を再発見「西区ハマのウォーキングフェスティバル」: www.city.yokohama.jp/me/nishi/houdou/081127chiikishinko.html



川崎市平和館で展示したFAO提供の農具など ©FAOLOJ

今後の主な活動予定

2008.12.2 - 2009.3.1

企画展「食料問題を考える『飢餓×飽食』」

東京・JICA地球ひろば
JICA主催、FAO日本事務所ほか協力

2009.1.21

国際平和講演会「みんな地球に生きるひと」

講師: アグネス・チャン氏 (日本ユニセフ協会大使)
神奈川県民ホール
横浜市主催、FAO日本事務所ほか協力

2009.1.26

第7回食料・農業協力講演会
「アフリカの稲作振興とわが国の協力」

講師: 窪田博之氏 (JICA農村開発部審議役)
東京・法曹会館
JAICAF主催

テレフード募金にご協力を

募金は、アジアやアフリカの食料不足の地域で、貧困農民の食料増産を支援する「テレフード・プロジェクト」に使用されます。

郵便振替口座

00140-1-29732

FAO 飢餓撲滅の根募金



※振替手数料無料。ご寄付は税金控除の対象となります。

本紙の配布について

本紙「FAO Newsletter」は、季刊誌「世界の農林水産—FAO ニュース—」とセットでJAICAFの会員にお送りしています。ご希望の方はJAICAFまでお申し込みください。指定場所でも配布しています。詳しくはJAICAFウェブサイトをご覧ください。

発行: 社国際農林業協働協会 (JAICAF)

〒107-0052

東京都港区赤坂8-10-39 赤坂KSAビル3階

TEL: 03-5772-7880

E-mail: fao@jaicaf.or.jp

URL: www.jaicaf.or.jp

共同編集: 宮道 りか、Linda Yao (FAO日本事務所)

森 麻衣子、廣瀬 ちづる (JAICAF)

翻訳協力: 大軒 恵美子 ほか

デザイン: 岩本 美奈子、藪内 新太

News source: www.fao.org

FAO
Newsletter

Jan.2009

vol.34